

## スマートシティ開発に向けた、インドネシアでの 自動運転車両の実証事業を開始！

～三菱商事株式会社、株式会社マクニカと委託契約を締結～

国際協力機構（JICA）は12月10日、「中小企業・SDGs ビジネス支援事業 普及・実証・ビジネス化事業（SDGs ビジネス支援型）」において三菱商事株式会社（東京都千代田区）、株式会社マクニカ（神奈川県横浜市）が提案する「BSD スマートシティの実現に向けた自動運転モビリティサービス普及・実証・ビジネス化事業」（インドネシア国）に係る委託契約を締結しました。

インドネシアは東南アジア地域において人口・国土ともにASEAN 最大の中核国であり、東南アジアトップの自動車産業国である一方、首都中心部の過密な交通環境による大気汚染が深刻な問題となっており、PM2.5 の濃度は世界第6位となっています。

同社が提案する「自動運転 EV シャトルバス」を導入することで、交通利便性の改善、加えて自家用車の利用削減によりCO2 削減効果が高まり、地球環境に優しい都市の実現に貢献することが期待されています。



自動運転 EV シャトルバス

今回の事業では、インドネシア国タンゲラン県にて開発が進められているBSD(Bumi Serpong Damai)シティ内にて、「自動運転 EV シャトルバス」を同シティ内の居住者等を対象に運行し、実証を通じて同製品の有効性の確認を行なうとともにビジネス化を目指します。

本事業は、我が国の民間企業等を対象とした「中小企業・SDGs ビジネス支援事業 普及・実証・ビジネス化事業（SDGs ビジネス支援型）」として実施されます。

### 本件に関する問い合わせ先】

独立行政法人国際協力機構（JICA）民間連携事業部 担当：藤井  
TEL 03-5226-9283 e-mail: ostp1@jica.go.jp

補足:

普及・実証・ビジネス化事業は、民間企業等からの提案に基づき、途上国の開発課題の解決に有効に活用できるポテンシャルを有する製品・技術等の現地適合性を高めるための実証活動の実施および普及方法を検討することを目的とした事業で、2012年度から実施されています。